

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	現代朝鮮語の卑称の疑問終結語尾 n#nka, na, ni, n#njaに関する小考
Author(s)	大西, 三千緒
Citation	ニダバ, 11 : 1 - 14
Issue Date	1982-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047133">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047133</a>
Right	
Relation	



## 現代朝鮮語の卑称の疑問終結語尾 nĩnka, na, ni, nĩnja に関する小考

大 西 三千緒

### 0. はじめに

朝鮮語と日本語は語順がほとんど同じである。両語とも助詞を有し、肯定・疑問・命令などの話し手の意向、法が述部の最後で示されることも共通である。

病院に一緒に行って下さらないでしょうか。

を朝鮮語で表すと次のようである。

<u>pjəgwən</u> <sup>(註1)</sup>	<u>e</u>	<u>kat i</u> <sup>h</sup>	<u>ka</u>	<u>č u s i</u>	<u>č i</u>	<u>anhkess</u>	<u>sĩpnik'a</u>			
名	助	副	動詞語幹	補助語幹	尊敬の接辞	否定を引き出す副詞の接辞	否定の語幹	推量・婉曲の接辞	丁寧の語尾	疑問の語尾
詞	詞	詞	詞	詞	詞	詞	詞	詞	詞	詞
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
病院	に	一緒に	行って	くださ	ら	ない	だろう	です	か	

上に示したいくつかの形態素のうち        に現われるものを終結語尾と呼んでいる。終結語尾は次の5つに大別できる。

- 肯定の終結語尾
- 疑問の終結語尾
- 命令の終結語尾

請誘(勧誘)の終結語尾

感嘆の終結語尾

現代朝鮮語文法の出発点となったと思われる崔鉉培『ulimalpon (国語文法)』は、それぞれの終結語尾を話し手が聞き手に対して表示する敬意度と関連して5段階に分類している。このほかに

3段階……『čosənmunhwaəmunpəp (朝鮮文化語文法)』

6段階……河野六郎『hankukə kaŋčwa č okip jo ŋ (韓国語講座・初級用)』

などの分類がある。

崔鉉培は、疑問の終結語尾を次表のように分類している。

[表1]

極尊称	(p)nik'a
普通尊称	o(io, so)
普通卑称	ninka
極卑称	na, ni, ninja
半語(中称)	a(ə), či

8つの疑問の終結語尾が5段階に分類され表におさめられているが、実際には、上の表が示すように平面的に捉え得るものではない。

以上のように、従来、終結語尾についての分類は多くの研究者によって行なわれているが、個々の終結語尾の用いられる条件や、終結語尾相互の関係について具体的に言及したものはない。

更に、従来の研究では常に文末だけに焦点があてられ、聞き手に対する呼称(二人称代名詞)と終結語尾とのかわりについては全く言及されていない。待遇の問題を取り扱う場合には、発話の全体を捉え、聞き手に対する呼称(二人称代名詞)と終結語尾との呼応・調和についても考慮すべきである。

本稿では特に、卑称の疑問終結語尾について考察する。これは、卑称疑問の部分終結語尾の体系の中で特に多様な形態をもっているためである。

本稿では卑称の疑問終結語尾 ninka, <sup>(i+3)</sup>na, ni, ninja <sup>(i+4)</sup> について

- (i) 表現上の特徴、使用上の制約を調査する。これは細部にわたる立体的な把握を目的とするものである。
- (ii) 全き発話としての、聞き手に対する呼称との関連を明らかにするため、卑称の二人称代名詞 čane, nə との共起関係を調査する。

こうした解明は教育の現場には必要不可欠なものであり、これらの正確な把握なしには具体的な発話は不可能である。

## 1. 卑称の疑問終結語尾 *ninka, na, ni, ninja* における婉曲表現作用, 及び使用上の制約

崔鉉培の5段階分類では, [表1]が示すように,

普通卑称 —— *ninka*

極卑称 —— *na, ni, ninja*

となっている。その分類基準は次の通りである。

普通卑称 *ninka* : 聞き手を少し低めている語。極卑称よりはいくらか聞き手を高めている語。

極卑称 *na, ni, ninja* : 聞き手を非常に低めている語。大人が子供に, または地位の高い者が地位の低い者に対していう語。<sup>(註5)</sup>

しかし, この分類基準は甚だ曖昧である。

普通卑称と, 極卑称の間の卑称度の差異とは具体的にどうということか。極卑称の疑問終結語尾としてひとまとめに分類されている *na, ni, ninja* の用法にはどのような違いがあるか。

本項では, 従来分類の枠を取り除き, 一つの叙述文を4つの卑称の疑問終結語尾 *ninka, na, ni, ninja* を用いた文に書き替え, 疑問文としての表現上の特徴, 及び聞き手に対して用いられる場合の使用上の制約を調査する。<sup>(註6)</sup>

朝鮮語の待遇表現において考慮すべき基本的なものに,

- 1) 年令の上下関係
- 2) 社会的地位・身分の上下関係
- 3) 同一親族内での系譜上の上下関係

がある。中でも上下の判断の基準として最も根底にあるのが年令である。本稿では, 年令を基準にして調査をすすめる。

例文: *papil məkəsssta*      ご飯を食べた

上の例文を卑称の疑問終結語尾 *ninka, na, ni, ninja* を用いて書き替えたものが, (イ)~(ニ)である。

- (イ) *papil məkəssninka*
- (ロ) *papil məkəssna*
- (ハ) *papil məkəssni*
- (ニ) *papil məkəssninja*

### 1-1. *ninka, na, ni, ninja* における婉曲表現作用

(イ)~(ニ)はすべて, 自分よりも下のものに対して質問・疑問を投げかける文である。しかし, その表現上の特徴は一律ではない。

(イ)と(ロ)の疑問の終結語尾 *ninka* と *na* は話し手自身が、疑わしさ・不確実さを自分自身に反問する場合にも用いられる。たとえば、独り言で、

ič iŋi čojoghanĩnte koŋpuhako ittnĩnka(ittna)

二階が静かだが勉強してるんだろうか。

のように用いられる。

それゆえ、(イ)・(ロ)の *ninka*, *na* のように、聞き手に対する卑称の疑問終結語尾として用いられる場合にも、直接的に「——か?」と尋ねるのではなく、問いに対して何らかの反応を、聞き手に遠慮がちに、婉曲に求めるという色彩が強い。言いかえれば、年下・日下・同年輩であっても、聞き手の人格や存在を認めているという話し手の態度を示すものである。又、これは逆に、話し手の人格の高さを聞き手に示すことにもなる。(イ)・(ロ)両者の間には、その程度にわずかばかりの差があり、(イ)の方がより聞き手に対しての遠慮の度合いが高い。これは、*ninka* が *na* よりも、話し手自身の疑わしい気持を表す語尾、つまり、独り言の語尾としての傾向が強いためと思われる。

(イ)・(ニ)の *ni*, *nĩnja* には聞き手に対して遠慮がちに問いかけるという婉曲表現作用はなく、直接的に「——か?」と質問する疑問終結語尾である。

*ninka*, *na* を婉曲的な「問いかけ疑問」の語尾とするなら、*ni*, *nĩnja* は直接的な「単純疑問」の語尾と言うことができよう。

## 1-2. *ninka*, *na*, *ni*, *nĩnja* の使用上の制約

(イ)~(ニ)が老人・年輩者・若者・子供の年令別にどのように用いられているかをまとめたものが〔表2・ア〕~〔表2・ウ〕である。

〔表2・ア〕—それほど親しくない場合。

〔表2・イ〕—極く親しい関係の場合。

〔表2・ウ〕—年令の上下関係に加えて、地位の上下関係がある場合や話し手が聞き手に対して見下した態度や横柄な態度で臨み得る場合。

調査内容は、〔表2〕の調査項目が示す通りである。

[表2・ア]

調査項目 終結語尾	年 上 → 年 下						同 年 輩 どう し				
	老 ↓ 年輩者	人 ↓ 若者	子 ↓ 子供	年輩者 ↓ 若者	者 ↓ 子供	若者 ↓ 子供	子供 ↓ 動物 赤ん坊	老人 どうし	年輩者 どうし	若者 どうし	子供 どうし
(イ) ninka	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(ロ) na	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-	-
(ハ) ni	-	-	+	-	+	+	+	-	-	-	+
(ニ) ninja	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-

[表2・イ]

調査項目 終結語尾	年 上 → 年 下						同 年 輩 どう し				
	老 ↓ 年輩者	人 ↓ 若者	子 ↓ 子供	年輩者 ↓ 若者	者 ↓ 子供	若者 ↓ 子供	子供 ↓ 動物 赤ん坊	老人 どうし	年輩者 どうし	若者 どうし	子供 どうし
(イ) ninka	+	+	-	-	-	-	-	+	-	-	-
(ロ) na	+	+	-	+	-	-	-	+	-	-	-
(ハ) ni	+	+	+	+	+	+	+	-	男性どうし- 女性どうし- 間- + + +	+	+
(ニ) ninja	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-

[表2・ウ]

調査項目 終結語尾	年 上 → 年 下						同 年 輩 どう し				
	老 ↓ 年輩者	人 ↓ 若者	子 ↓ 子供	年輩者 ↓ 若者	者 ↓ 子供	若者 ↓ 子供	子供 ↓ 動物 赤ん坊	老人 どうし	年輩者 どうし	若者 どうし	子供 どうし
(イ) ninka	+	+	-	-	-	-	-	+	+	-	-
(ロ) na	+	+	-	+	-	-	-	+	+	-	-
(ハ) ni	-	+	+	+	+	+	+	-	-	+	+
(ニ) ninja	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-

[表2・ア]～[表2・ウ]を参考に、卑称の疑問終結語尾 ninka, na, ni, ninja の用いられ方をグラフにしたものが[表3]～[表6]である。表中の○印、矢印は、

○ 使い手

↓ 年上から年下に用いる

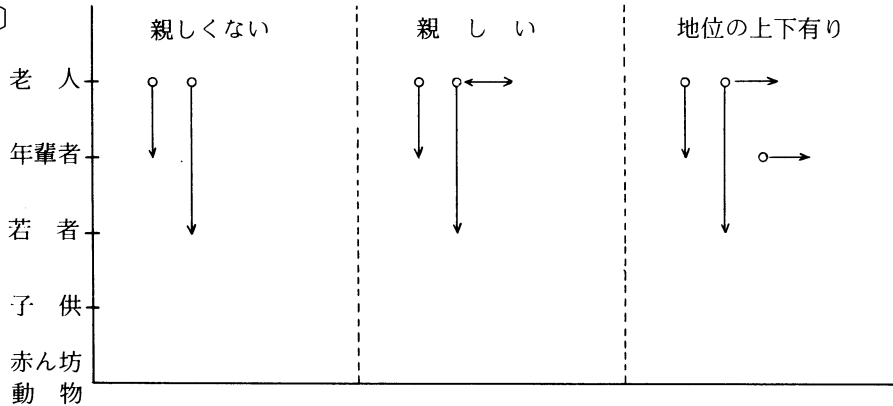
↔ 同年輩どうしが用いる

→ 同年輩であるが地位の上下がある場合、上の者が下の者に用いる

を示す。

### 1-3. ninka の使用上の制約

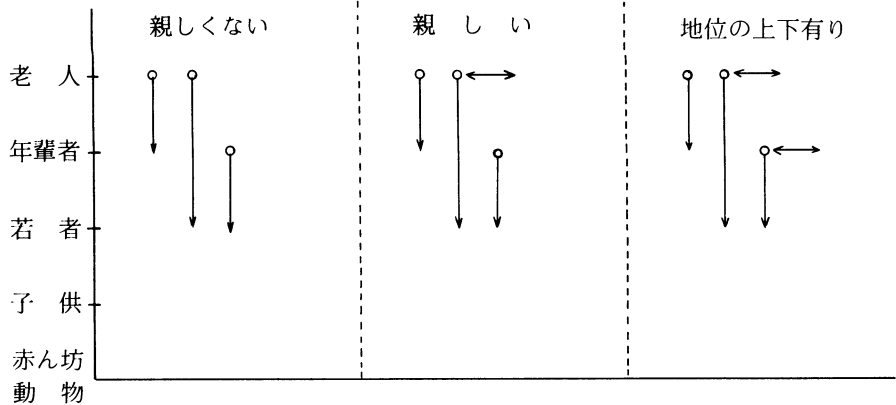
[表3]



- 若者・子供は用いない。
- 老人が年輩者か若者に対して用いる。
- 子供や動物に対しては用いない。
- 親しい老人どうしが用いる。
- 同年輩ではあるが、地位の上下が明確にある老人どうしや年輩者どうしの場合、それぞれ地位が上の者が下の者に対して ninka を用いることができる。

### 1-4. na の使用上の制約

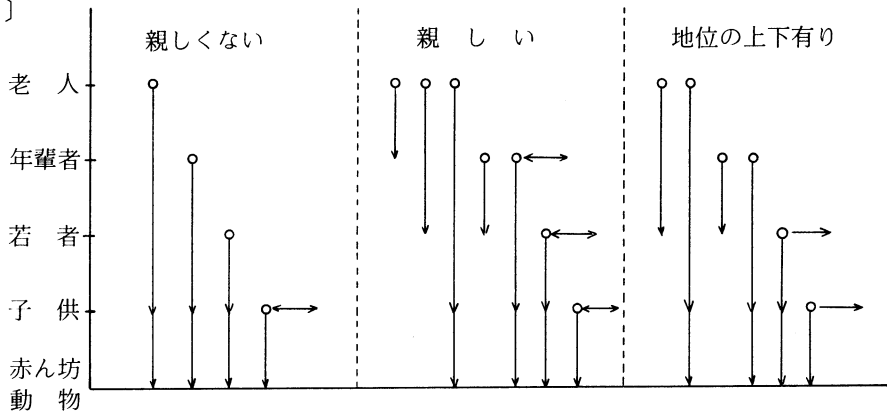
[表4]



- 若者・子供は用いない。
- 老人や年輩者が用いる。
- 子供や動物に対しては用いない。
- 親しい老人どうしが用いる。
- 同年輩ではあるが、地位の上下が明確にある老人どうし・年輩者どうしの場合、それぞれ地位が上の者が下の者に対して na を用いることができる。

1-5. ni の使用上の制約

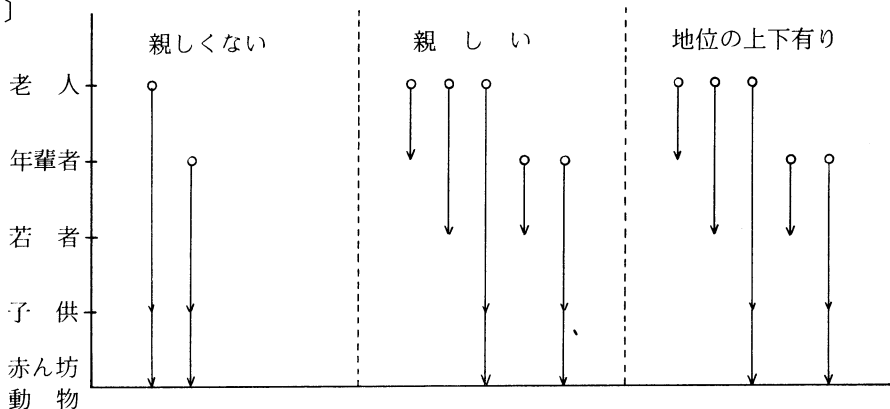
[表5]



- 老人・年輩者・若者・子供が一樣に、自分よりも年下の者に対して用いる。
- 親が50代の息子に対して用いるような極く親しい関係の場合を除いては、老人や年輩者に対しては用いない。
- 親しさに関係なく、老人どうし・年輩者どうしは用いない。
- 例外的に、ごく親しい中年の女性どうしが用いる。
- 子供どうし・若者どうしが用いる。ただし、若者どうしも親しくない場合には用いない。
- 親しくない間柄では、子供や動物にしか用いない。

1-6. ninja の使用上の制約

[表6]





- 30代以下の者・若者・子供は用いない。
- 老人や年輩者が自分よりも年下の者に対して用いる。
- 親しき・年令に関係なく、同年輩どうしでは用いない、
- 老人や年輩者に対してはほとんど用いないが、極く親しい間柄の場合、たとえば、70代のおじいさん・おばあさんが50代・40代の息子や嫁に対して用いることがある。
- 同様に、主人と召し使いの関係のように、聞き手が明らかに日下である場合、もしくは、話し手が聞き手に対して横柄な態度を取り得る場合には、年輩者に対しても用いられる。
- 親しくない間柄の場合は、子供や動物に対してしか用いない。

### 1-7. ま と め

1-3, 1-4 が示す *ninka, na* の使用上の制約は、1-1 で述べた *ninka, na* の婉曲表現作用を裏付けるものである。

*ninka*・*na* の使用上の制約

- 子供や動物に対しては用いない。
- 一人前の者に対して用いる。
- 使い手が老人と年輩の者に限られている。

*ninka, na* の婉曲表現作用とは、高める必要のない聞き手に対しても気遣いや遠慮を示しつつ、同時に、話し手の人格の高さを示すものでもある。これは、老人・年輩者が一人前の大人に対して用いるという、*ninka, na* の使用上の制約と呼応する。

1-5, 1-6 が示す *ni, ninja* の使用上の制約

- 親しくない間柄では、子供や動物に対してしか用いない。
- 親しい場合や地位の上下がはっきりしている場合でも、老人どうし・年輩どうしでは使用がはばかれる。

なども、*ni, ninja* が婉曲表現作用のない、直接的な「単純疑問」の語尾である点と一致する。

従来の研究では終結語尾は、話し手の聞き手に対する敬意度により分類されてきた。しかし、本項でみたように、婉曲表現作用や使用上の制約などの種々の要素が複雑に入り組んでいるため、敬意度という一つの基準によってランク付けできるものではない。

特に、卑称度の高低を論じるのは容易でない。判断の要素が多岐にわたっているためである。年令差・地位の上下差が大きいかほどその表現はぞんざいになり、親しい間柄であるほど口調になる。心理的には、聞き手を見下す度合いが大きいかほど聞き手を低めたことば使いになる。

年令差の大きい場合と、親密度の高い場合と、どちらの卑称度がより高いかを決定するのは困難である。更に、実際には一つの語に、これらの要素が多元的に入り組んでおり、従来の敬意度だけによる分類は、朝鮮語の現実を正確に写しとるものではない。

卑称の疑問終結語尾 *ninka*, *na*, *ni*, *ninja* の間にあるのは、聞き手に対する敬意度の差ではなく、婉曲表現作用の有無や使用上の制約における差異である。*ninka*, *na*, *ni*, *ninja* を卑称の疑問終結語尾として同一ランクに位置づけ、その中で婉曲表現作用の有無、更に個々の語尾について使用上の制約の整理を行うのが、朝鮮語の現実により適合したものではなかろうか。

## 2. 卑称の疑問終結語尾 *ninka*, *na*, *ni*, *ninja* と卑称の二人称代名詞 *čane*, *nə* の共起関係

崔鉉培の分類によれば、卑称の二人称代名詞には次の二つがある。

普通卑称 —— *čane*

極卑称 —— *nə*

本項では、まず、卑称の二人称代名詞 *čane* と *nə* がどのように使い分けられているかを調べ、次に、卑称の疑問終結語尾 *ninka*, *na*, *ni*, *ninja* との共起関係について調査分析を試みる。

### 2-1. *čane*, *nə* の使用上の制約

*čane*, *nə* が老人・年輩者・若者・子供の年令別にどのように用いられるかをまとめたものが〔表7〕である。

〔表7〕

終結語尾	調査項目	目上 → 目下						同年輩どうし				備考	
		老人			年輩者		若者	子供	老人どうし	年輩者どうし	若者どうし		子供どうし
		年輩者	若者	子供	若者	子供	若者 ↓ 子供	子供 ↓ 動物坊					
<i>čane</i>	親しくない	+	+	-	+	-	-	-	+	+	-	-	<i>čane</i> : ・男性が用いる ・親しい間柄の場合に、例外的に年寄りの女性が年下の者に対して用いる。
	親しい	+	+	-	+	-	-	-	+	+	-	-	
<i>nə</i>	親しくない	-	+	+	-	+	+	+	-	-	+	+	
	親しい	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	

(注1) 親しくなくとも顔見しりの間柄の場合。

(注2) 30代の男性どうしも用いる。

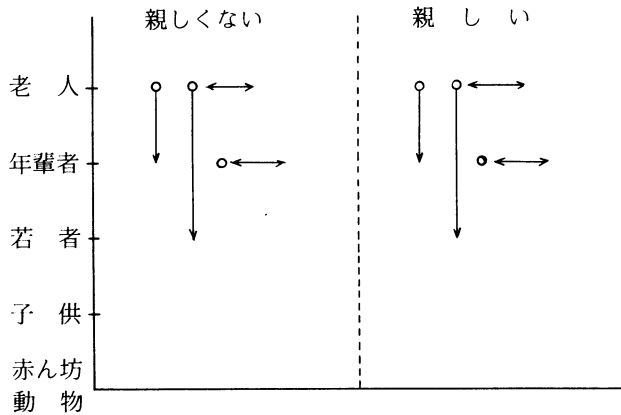
(注3) 親しさの度合：*nə* > *čane*

(注4) 高校生以上の者に対して用いる。

〔表7〕を参考に、*čane*, *nə* の用いられ方をグラフにしたものが〔表8〕〔表9〕である。

2-2. ちane の使用上の制約

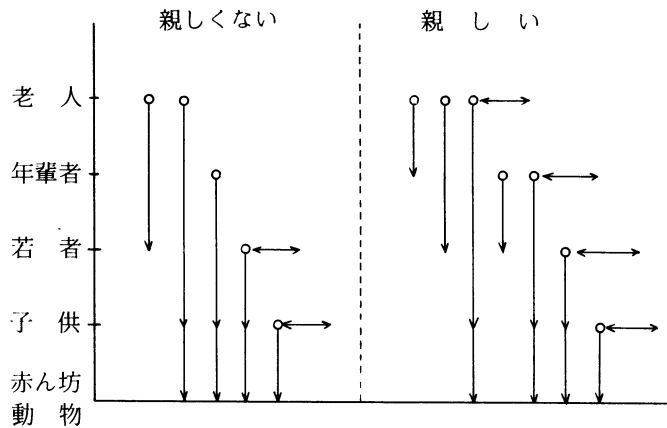
[表 8]



- 子供・若者・女性は用いない。親しい間柄の場合、例外的に年寄りの女性が年下の者に対して用いる。
- 男性の老人(どうし)と年輩者(どうし)が用いる。
- 子供や動物には用いない。

2-3. na の使用上の制約

[表 9]



- 老人・年輩者・若者・子供が一樣に、自分より年下の者に対して用いる。
- 親しい間柄では同年輩どうしで用いる。
- 親しくない場合は、老人どうし・年輩者どうしは用いない。
- 親しくない場合は、年輩者に対して老人が用いても失礼になる。

2-4.

親しくない老人どうし・年輩者どうしは ちane を用いる。これは、大人どうしで保つべき体

面や聞き手に対する気遣い・遠慮が čane に含まれているためと考えられる。čane を遠慮や体面を保つ必要のない、子供や動物に用いないのもこのためである。

nə は聞き手に対しての気遣いなど全くなしに用いられる。子供や動物に対しても、また極く親しい間柄の場合には、老人どうしによっても用いられる。

## 2-5. nĩnka, na, ni, nĩnja と čane, nə の共起関係

čanenĩn, nənĩn ( čane, nə に主格助詞 nĩn 「は」が付いたもの)が(イ)~(ニ)の文頭に立ち得るかを調査したものが[表10]である。

[表10]

	čane	nə
(イ) nĩnka	+	-
(ロ) na	+	-
(ハ) ni	-	+
(ニ) nĩnja	-	+

崔鉉培の分類では、

普通卑称 nĩnka : čane

極卑称 na, ni, nĩnja : nə

となっているが、筆者の調査結果では[表10]が示すように、その共起関係は次の通りである。

nĩnka, na : čane

ni, nĩnja : nə

nĩnka, na と čane の共起は理にかなっている。nĩnka, na には婉曲的な「問いかけ疑問」という婉曲表現作用があり、聞き手に対する気遣いや遠慮を必要とする一人前の大人に対して用いられる。同様に čane も、主に男性の老人(どうし)・年輩者(どうし)が、大人の体面を保ちつつ、聞き手に対する気遣いを示しながら用いられる。

ni, nĩnja と nə は、ともに、子供や動物に対しても用いられる。婉曲表現作用のない直接的な「単純疑問」を表示する ni, nĩnja と聞き手に対する遠慮や気遣いを必要としない nə の共起もまた、納得のゆくものである。

### 3. 結 論

従来の終結語尾の研究では、敬意度による分類のみに重きが置かれ、個々の終結語尾が用いられる条件や、終結語尾相互の関係についての具体的言及は全くなされていない。

本稿では、卑称の疑問終結語尾 *ninka*, *na*, *ni*, *ninja* について、表現上の特徴・使用上の制約を調査するとともに、発話全体を捉えた場合に、終結語尾と必然的に関連をもってくる二人称代名詞 *čane*, *nə* との共起関係を調査した。

調査の結果をまとめたものが[表11]である。

合わせて *čane*, *nə* の使用上の制約をまとめたものが[表12]である。

[表11]

調査項目			終 結 語 尾	<i>ninka</i>	<i>na</i>	<i>ni</i>	<i>ninja</i>
婉曲表現作用の有無				婉曲表現作用有り 婉曲的「問いかけ疑問」		婉曲表現作用無し 直接的「単純疑問」	
使 用 上 の 制 約	年上 ↓	使い手 の制約	親しくない	老人が用いる	老人・年輩者 が用いる	制約なし (誰が用い てもよい)	老人・年輩者 が用いる
			親しい				
			地位の上下有り				
	年下	聞き手 の制約	親しくない	子供や動物には用いない		制約なし (誰に対して用 老人・年輩者には用いない いてもよい)	
			親しい				
			地位の上下有り				
同年輩どうし		親しくない	用いない				
		親しい	老人が用いる	中年の女性・子供 ・若者が用いる			
		地位の上下有り	老人・年輩者が用いる	子供・若者が 用いる			
二人称代名詞との共起関係			<i>čane</i> と共起		<i>nə</i> と共起		

[表12]

調査項目		卑称の二人称 代名詞	čane	nə
年 上 ↓ 年 下	使い手の	親しくない	男性の老人が用いる	制 約 な し
	制 約	親 し い	主に男性の老人が用いる 年寄りの女性が用いることもある	(誰が用いてもよい)
	聞き手の	親しくない	子供・動物には用いない	老人・年輩者には用いない
	制 約	親 し い		制 約 な し (誰に対して用いてもよい)
同 年 輩 どう し		親しくない	男性の老人・年輩者が用いる	若者・子供が用いる
		親 し い		制 約 な し

[表11]が示すように卑称の疑問終結語尾 ninka, na, ni, ninja の間にあるのは、聞き手に対する敬意の差ではなく、婉曲表現作用の有無や使用上の制約における差異である。

従って、ninka, na, ni, ninja を卑称の疑問終結語尾として同一ランクに位置づけ、個々の語尾について婉曲表現作用の有無や使用上の制約などの把握を行うことが、朝鮮語の現実により適合したものではなかろうか。

こうした把握なしには具体的な発話の成立は不可能である。

他の終結語尾の分類においても婉曲表現作用の有無や使用上の制約が示唆されるべきである。

婉曲表現作用の有無が朝鮮語の待遇表現をより多様なものに行っていることは本稿でみたとおりである。自分よりも目上・年上の者に対してのみならず、下の者に対しても表示される「婉曲」は、朝鮮語の待遇表現を論ずる上での重要なポイントの一つと言えるであろう。

本稿では卑称の疑問終結語尾のみを扱った。別の機会に、終結語尾を総括的に考察したい。また、他の終結語尾と二人称代名詞との共起関係も体系立って存在するはずである。合わせて次の機会に考察を試みたい。更に、話しことばの終結語尾と書きことばの終結語尾の比較も残された課題である。

## 注

- (1) 許雄の音素表記による文字転写。
- (2) 『ulimalpon (国語文法)』p. 271。上記以外にいくつかの疑問終結語尾が示されているが、現在ほとんど用いられないものや、時制辞の付いたものは本稿では除外した。
- (3) ninka により ninka, ĩnka, nka を代表させる。
- (4) ninja により ninja, ĩnja, nja を代表させる。

- (5) 『ulimalpon (国語文法)』p. 262～264。(筆者訳)
- (6) 調査は主にインフォーマントに依った。
- インフォーマント：K氏，女性，30代，ソウル出身，大学卒，日本在住10年。  
：Y氏，女性，20代，ソウル出身，大学卒，日本在住1年半。

## 参 考 文 献

朝鮮民主主義人民共和国科学院言語文学研究辞典研究室『čosənmalsaçən (朝鮮語辞典)』1968  
東京

Samul E. Martin, Yang-Ha Lee, Sung-Un Chang 『New Korean-English Dictionary』1976  
ソウル

申琦澈・申溶澈『se ulimal k<sup>h</sup>in sačən (新国語大辞典)』1976 ソウル

崔鉉培『ulimalpon (国語文法)』1975 ソウル

科学・百科辞典出版社『čosənmunhwaəmunpəp (朝鮮文化語文法)』1979 ピョンヤン

金日成総合大学出版社『čosənmunhwaəmunpəpkjupəm (朝鮮文化語文法規範)』1977 東京

渡辺吉裕「韓国語の疑問語尾「ninja」, 「ninka」に関する一考察」アジア・アフリカ文法研究 7.  
1978 東京

梅田博之「朝鮮語はどんな言語か」月刊言語 9. 1977 東京

塚本勲「日朝比較表現論」日本語と日本語教育. 昭和53. 東京

Takao Ooe “On the Indicative Endings in Modern Korean”言語研究34. 1958 東京